

2024年度

SC

## 小論文

3月12日(火)

人文社会科学部 (法学科)

10 : 00 ~ 11 : 30

【後期日程】

### 注意事項

#### 試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(2枚)に受験番号を記入しなさい。

#### 試験開始後

- 3 この問題冊子は、5ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙(1枚(表裏))を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については、下記の点に留意すること。

- ・問1・問2の書き出しは、一マスあけないが、問3はあける。
- ・段落を改めるときは、最初の一マスをあける。
- ・句読点は、それぞれ一マス使う。行の末尾については文字と同じ一マスに含める。
- ・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」は、それぞれ一マス使う。
- ・英数字は一マスに2文字入れてよい。

- 6 問題は、声を出して読んではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

#### 試験終了後

- 8 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

元新聞記者の弁護士によって書かれた次の問題文を読み、以下の設問(問1・問2・問3)に答えなさい。

[問題文]

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

## 著作権の関係上、公表しません。

(出典) 藤川忠宏 「取材し実践した司法制度改革—ある新聞記者の証言」法学セミナー 812号, 15-19頁(2022)

なお, 出題にあたり, 原文にあった小見出しを省き, 原文にない(注1), (注2), (注3) およびルビ等を追加し, 文章を一部改めた。

(注1) 瀟洒 すっきりとしてあかぬけたさま。

(注2) 百家争鳴 多くの学者が自由に自説を発表し論争すること。

(注3) リーガルサービス 法的な助言から裁判手続まで, 法律家が人々に提供する法律に関わる役務。法律扶助を意味することもある。

### [設問]

問1 下線部(1)「伝統的な法意識」について, 問題文で著者が述べていることを, 100字以内で説明しなさい。(配点20%)

問2 下線部(2)について, 問題文で著者が述べていることを, 150字以内で説明しなさい。(配点20%)

問3 問題文を読み, 一連の司法制度改革についてどのように考えるか, 600字以内であなたの考えを述べなさい。(配点60%)

## 採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	小論文（後期日程試験：令和6年度）	問題番号	S C
対象学部・学科(課程)等	人文社会科学部（法学科）		
出題のねらい	<p><b>問1</b> 問題文の趣旨を理解するうえで鍵となる著者の認識をまとめさせることによって、文章の読解力及び言語表現力を測ることをねらいとしている。</p> <p><b>問2</b> 問題文の趣旨を理解するうえで鍵となる著者の認識をまとめさせることによって、文章の読解力及び言語表現を測ることをねらいとしている。</p> <p><b>問3</b> 問題文の趣旨を踏まえて自己の考えを展開させることにより、文章の読解力、論理的思考力、社会的問題への関心の高さ、言語表現力を測ることをねらいとしている。</p>		
採点基準	<p><b>問1</b> 配点 20% (80 点) 設問の指示に従って、問題文のうち下線部の示す具体的内容を正しく理解し、十分にまとめられているか否かをみる。</p> <p><b>問2</b> 配点 20% (80 点) 設問の指示に従って、問題文のうち下線部の示す具体的内容を正しく理解し、十分にまとめられているか否かをみる。</p> <p><b>問3</b> 配点 60% (240 点) 設問の指示に従って、問題文の主要動機を正しく理解しているか、そして、それを踏まえて自己の見解を表明し、その論拠を論理的に提示できているか否かをみる。</p>		